

[023_03/04] 経済学研究表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/4370950>

出版情報：経済学研究. 23 (3/4), 1959-04-25. 九州大学経済学会
バージョン：
権利関係：





森 耕 二 郎

九州大学教授 森 耕二郎博士

教授は昭和三十年二月をもつて還暦の寿を迎えられた。明治二十八年二月二十三日に滋賀県甲賀郡甲賀町に於て生誕されたのである。大正十一年京都帝国大学経済学部を卒業され、引続いて同大学大学院で学ばれた後、大正十三年同大学講師、昭和三年には九州帝国大学助教授として来任されることになった。昭和五年、社会政策および工業政策の研究のため二ヶ年にわたり欧米に留学され、帰朝の後、昭和八年に九州大学教授に任ぜられ、昭和二十二年には法文学部長に、同二十四年には経済学部独立に際して初代学部長の重任にあたられた。同二十七年には九州大学産業労働研究所長に就任された。学会においては、日本学術会議会員として、また日本社会政策学会および経済政策学界において寄与されること多く、労働問題の権威者として労働界に貢献されること多大であつた。

森 耕 二 郎 教 授 著 作 目 録

森 耕二郎教授 著書及び論文目録

◎ 著 書 (編著を含む)

リカード価値論の研究	大正十五年二月	岩 波 書 店
労賃学説の史的発展	昭和三年四月	弘 文 堂
社会 政策 要論	昭和十年八月	弘 文 堂
工業 政策 要論	昭和十一年九月	巖 松 堂 書 店
戦時社会政策(上)(新経済体制叢書 第五冊)	昭和十七年八月	富 山 房
戦後の社会問題	昭和二十一年九月	西 日 本 新 聞 社
リカード価値論の研究(新版)	昭和二十四年一月	研 進 社
労賃学説の史的発展(新版)	昭和二十四年十一月	勞 働 文 化 社
社会政策要論(増訂版)	昭和二十六年一月	日 本 評 論 新 社
生活水準(経済学新大系 V)(編著)	昭和二十八年一月	河 出 書 房

◎ 雜誌掲載論文

大正十二年

労働生産力と労賃

大正十三年

客観的労賃論の史的発展

マルクスの労賃論

リカードの価値論について

大正十四年

アダム・スミスにおける労働価値法則の妥当性に就て

リカードに於ける労働価値法則の妥当性に就て

大正十五年

アダム・スミスの労賃論

サミュエル・ペイリー

昭和二年

フィジオクラートの労賃論と「純収入」

リカードの労賃論とマルサスの人口法則

リカードの労働階級将来観と功利主義哲学

昭和九年

労働概念の吟味

高・低労賃政策の理論

『国民的労賃』——労賃の国際的比較の問題——

経済論叢第十八卷三一四号

経済論叢第十八卷五一六号

経済論叢第十九卷五一六号

経済論叢第二十卷五一六号

経済論叢第二十一卷二一四号

経済論叢第二十三卷五号

経済論叢第二十三卷六号

経済論叢第二十四卷一号

経済論叢第二十五卷二号

経済論叢第二十五卷四号

経済学研究第四卷二号

経済学研究第四卷三号

経済学研究第四卷四号

昭和十年

我国中小工業の現段階的意義

経済学研究第五卷二号

昭和十一年

最近における我国労働者状態

経済学研究第六卷二—三号

経済と自然

九州帝国大学法文学部十周年記念経済学論文集(岩波書店)所収

昭和十六年

労働者移動について

社会事業研究第二十九卷三号

労働者移動問題——九州地方を中心として——

「時局と社会政策(1)」(日本評論社)所収

(日本學術振興會第四小委員會報告)

昭和十九年

戦時最低賃金と国民生活論

経済学研究第十二卷二号

昭和二十年

賃銀形態の問題

経済学研究第十三卷一号

昭和二十二年

低賃銀克服の途

労働問題研究第五号

賃金と機械化——炭坑を中心として——

北沢新次郎編「労働の社会的基礎」(雇傭問題研究会)所収

昭和二十四年

賃金と機械化——炭坑を中心として——

九州産労時報 No. 4

企業整備と失業

わが国失業の特質

賃金とインフレ独占物価

昭和二十六年

「失業者問題」「賃金学説」

昭和二十八年

ソーシャル・ダンピング論

昭和三十年

日本人口過剰論

昭和三十一年

適度人口論批判

絶対的窮乏化とは

九州産労時報 No. 8

労働評論昭和二十四年六月号

高橋誠一郎・大河内一男編「労働政策とその背景」(日本経済新聞社)所収

大阪市立大学経済研究所編「経済学小辞典」(岩波書店)項目分担

産業労働研究所報第六号

九州大学経済学部三十周年記念論文集(九州大学経済学会)所収

産業労働研究所報第十二号

経済評論第五卷九号

(以上)